

松陵

能代高等学校同窓会
事務局
能代高等学校内
能代市高埴2-1
TEL 0185-54-2230
FAX 0185-54-2231
題字は神馬前会長

「同窓会会員の皆様へ」



同窓会会長
田中仁純
(第二十五期)

同窓会の絆ともいふべき「松陵」がお手元に届く頃は、二〇〇〇年の幕開けが目の前に迫っているのではないのでしょうか。それはまた母校の創立七十五周年にもあたる年であり、一國文教ヲ以テ興リ、一國文教ヲ以テ亡ブ……の各文章で綴られた建学の上申書が認められ大正十三年に認可、翌十四年には一〇〇名の募集に二八四名の受験者があり、狭き門を突破された一期生の皆さんから数えて、来春卒業予定の七十期まで実に一万七千名を越える同窓生によってあたかも米代川の悠久の流れのように堂々として今日に至り、しかも益々隆盛をきわめている

ことは会員皆様と共に喜びたいと思います。さて母校は清野校長先生(二十九期生)をはじめ諸先生方のご尽力により、昨年の実績をさらに上回るべく鋭意努力されていると聞いております。またスポーツにおきましては、いま一步のところ、栄光に届かなかつた部が多く残念ではあります。が、今後の活躍に大いに期待するところです。次に教育環境のことで、高埴の地は樽子山から移転した当時は緑多い静閑の地で教育にはまことに恵まれていたが、最近集合型大型店の出店によりその繁華ぶりは目をみはるものがあります。今後周辺には宅地造成や新規出店の計画もうかがわれ、通学路の確保や敷地内への闖入者の防衛等環境整備に努めることが急務であるように思われます。今年度も創立記念日を中心に全国各支部において総会等の集いが開催されました。それぞれの支部において充実した運営がなされているようで心強く感じた次第です。最後になりましたが全国でご活躍の同窓会会員皆様のご健勝を祈念申し上げ挨拶と致します。

新しい学校づくりを目指して

校長 清野 宏隆 (第二十九期)



同窓会の会員の皆様には、母校に対し物心両面にわたるご支援・ご協力をいただきましてありがとうございます。同窓会には、各地区で開かれる支部同窓会にも出席させてもらいましたが、どこでも、母校への温かい激励の言葉をいただきました。私にとつては、本校が母校であるだけに大変ありがたく思っております。今春の卒業生は部活動での活躍がありました。進学でも健闘しました。進学者は実数で国公立大百人、私立大百五人となりました。難関大学にも合格者が増加し、大学・短大の進学率は七五・七%となり、県内第二位でした。今、在校生はこの卒業生を一つの目標にして頑張っております。今年度の部活動では、硬式野球が甲子園予選で準決勝まで、軟式野球が奥羽大

会で決勝まで進みましたが、あと一步及びみせんでした。インターハイには、空手道、体操、陸上競技の各部が出場しました。また、放送、新聞、無線の各部が全国大会へ出場し、文化部が例年以上に活躍しました。本校では、来年度から授業の改善策として、五十分授業をやめて、五十分授業を実施することにしてあります。授業時間を増やして学力全体の底上げを図っていきたくと考えております。今、本校の周りにはショッピングセンターや住宅が増えて、環境が大きく変わりました。今年度は高埴に移って二十五周年目、来年は創立七十五年目に当たります。その節目の時期にあたり、「至誠力行」の校訓をもとに新しい学校づくりを進めてまいりたいと考えております。

平成11年度能代高校同窓会 新年会のご案内

◆日時
平成12年1月21日(金)
午後5時半(受付5時より)
◎講演会(5時半より)

・演題
「ヒルは切られて痛いかな?」
・講師
佐々木 脩氏(第37期)
県立大短大部 教授

◎懇親会(6時40分～)

◆会場
金 勇 (能代市柳町)
電話 (0185)55-3355

◆会費
4,000円(当日持参)
*今回の当番幹事は、29期(新11)と39期(新21)です。
*参加申し込みは下記へご連絡下さい。

能代高校同窓会事務局
(能代高校内)
電話 (0185)54-2230

支部だより

能代高校東京同窓会

「平成十一年の総会開催及び

役員の変更について」

八柳 昭 義 (第二十六期)



十月八日(金)

神田の学士会館にて東京同窓会総会を開催、能代から田中同窓会長、清野校長、担任の先生方、交流をしている市内各高、大館鳳鳴の各東京同窓会の方々、それに激励のため招待している今年三月卒業生の首都圏在住新卒者四十六名が出席、会員百名を含め総勢一六二名が出席し、盛会の内に終了しました。

又、役員の変更を行いましたのでお知らせ致します。

◆新役員◆

「顧問」村木良二(十四期)、高橋義三(十七期)、

小林 肇(十九期)

「会長」 畠 豊彦(二十五期)、「副会長」 杉崎孝雄(二十六期)、石川正順(二十九期)、太田勝治(二十九期)、高田政勝(三十二期)、庄内 正(三十四期)、干場革治(三十五期)、若狭秀己(三十七期)、菅原 渉(三十九期)

「監事」 穴山勝良(二十八期)、「事務局長」 八柳 昭義(二十六期)

北海道支部

「継続こそ力なり」

石 井

茂 (第三十九期)



平成十一年度北海道支部同窓会はさる九月十日札幌経済センタービルで母校より清野校長、松谷教諭、成田在札能代山本学会長の御三方をお迎えし、総勢十二名と少数精鋭ながらも大変盛り上がった総

会を行う事が出来ました。

清野校長より後輩達が文武両道での活躍が報告

され、我々OBも負けてはいられないと改めて身を引き締められる思いを感じました。

同窓会も会員の高齢化と若手の入会者がなく、今後の課題として考えさせられる面もあります。継続こそ力なりをモットーに松陵健児の友好と団結で今後も大いに盛り上げ来年の出席を確認し合った。

県庁能高会

「県庁能高会四十五周年。

祈る母校の活躍を！」

佐 藤

徹 (第五十一期)



県庁能高会も昭和三十年一月一日に設立以来、四十五周年を迎えました。今年の総会は田中仁純同窓会会長、清野宏隆校長先生、高橋宏先生を来賓にお迎えし、七月二日に開催しました。顧問の佐々木満先生のあいさつの後、乾杯、懇親、校歌、応援歌とおおいに盛り上がりまして。四十五年と

いう長い間会を継続してきた諸先輩方のお力に敬意を表しますとともに、今後とも二八九人の会員が母校の活躍を話題に、みんなで楽しくお酒を飲むことができそうですよう、母校のより一層の発展を期待しています。

能代市役所能高会

**「研修会開催により
会員のレベルアップを」**

工藤 靖 (第二十九期)

「最近の国内外の情勢と地方自治体の役割、ちよつと堅い感があるテーマではありますが、百名を超す会員が皆真剣な眼差しで講師の話に聞きいつていた。これは、去る十一月十五日、市内で



開催した研修会の一コマであります。但し、支部では日頃から会員同志の親睦を図るとともに、資質の向上のため研修を重ねております。今後とも市民が安心して生活ができ、心身共に健康な毎日を送ること

ができる社会づくり、そして、我が母校「能高」の更なる発展・活躍に貢献できる支部・会員づくりに努めてまいります。

秋田支部総会

加賀 勝 己 (第三十期)

本年九月二十二日、秋田市内彌高会館にて、約六十名の同窓生が集い、総会が開催されました。

田中仁純同窓会長、清野校長、松谷先生の御来賓のほか、今回は元能代高校軟式野球部監督小玉徳征氏（現在米内沢校長）に講演をして頂きました

**『自在の家、
台座修復される』**

小林 肇氏 寄贈 (第19期)
(前東京同窓会 会長)

戸松恭一氏 製作 (第28期)



傾向にありますが、若い同窓生も参加しやすい同窓会をと考えております。



た。全国制覇を目指して監督としての苦労話を含めて、大変興味深い講演で感銘を受けました。また、剣道部に些少ですが寄附をさせて頂きました。

参加者は減少

「わが校の応援歌の出自」 に対しての「ご」教示



筆者略歴
昭和三十五年能代高校卒
昭和四十一年弘前大学医学部卒
昭和四十六年弘前大学大学院医学研究科修了
昭和五十五年工藤泌尿器科医院開設
「能代寮歌を愛する会」幹事

昭和三十五年卒(三十期生)

工藤茂宣

昨年十二月発行の松陵第十号に「わが校の応援歌の出自について」と題して拙文を載せて戴いた。その中で小生は、作詞、作曲者名が明記されている曲は校歌と遠征歌(潮騒さゆる北海の)のみであると書いた。

その後、貴重なご教示を先輩お二方から戴いたのでその内容をご紹介して記録にとどめたい。なお、紙幅に限りがあるので出来るだけ簡記するように努力する。

十一年一月に、能高同窓会経由で二十九期生の平川長氏より「平川民治は私の父です」とお手紙と民治氏の著書の一部のコピーが届いてびっくりした。長氏は「昔、父の古いレコードを時々聞いてびっくりした。長氏は「昔、父の古いレコードを時々聞いたが、能高の応援歌とよく似た曲が多くあったと記憶している。『洛陽寒く黄昏て』は能高の敗戦歌として歌われていたが、父のレコードでは(筆者注・四高剣道部の)優勝歌なのにと不思議に思っていた」という。

さて、民治氏の文によると以下の如くである。民治氏は旧制第四高等学校(金沢市)の野球部で、昭和五年に甲子園で優勝した。四高時代初めて能中野球部のコートに来た。能中で、民治氏の四高の先輩である二宮竜雄先生(当時能中の先生)を紹介されて驚いた。

二宮先生が言うには、能中の遠征歌を作詞の際、以前自分で作詞した四高の寮歌から二句を入れたと。曲は当時野球部部长であった山上可也先生が、一升瓶を下げて一夜能代浜で潮騒を伴奏に作曲したと本人から

聞いたと。歌詞について小生が手持ちの三冊の寮歌集で四高寮歌を調べたら確かにあった。一句は「あ、幽冥の」の歌詞に「あ、幽冥の霧はれて/潮騒さゆる北海」と。この寮歌はわが校の「遠征歌」と異なっており、厚重で遅く、哀調を帯びた曲である。二句目は応援団遠征歌「滄溟千里」の中に「誰かとゞめん若人の/嵐に向ふ熱血を」と。二曲とも大正十二年作である。長氏のお手紙によつて、わが校応援歌の曲のルートどころか、歌詞のルートまで解明された次第である。なお、寮歌集では二宮竜雄とあり竜ではない。寮歌集編集では字句に非常にうるさい方々が多いので龍が正しいはず。機会があれば訂正をお願いしたい。

次に、十月に第十期生(昭和十四年卒)の能代市柳町在住の久喜健男氏からお手紙を戴いた。久喜氏によると、現在の凱歌「天馬 空征く雄たけびに」(筆者注・元歌は旧制第一高等学校の水泳部部歌)は昭和九年入学時に「応援歌」として教えられた。作詞者は能中の先生と聞いたがブリントも紛失、氏名も失念した。「凱歌」は「日本海の荒波の/燃ゆる血潮のしぶき浴び」が昭和九年の秋か十年の春に新作として発表された。新制では歌われているや(筆者注・現在は「日本海」として歌われている)。作詞者は六期生の佐藤二郎氏で競技部のスター選手だった。作曲は音楽の先生。応援歌「戦わん哉」は昭和十三年五月の作成、発表である。

故人となられた方も多いため、記憶が明確なうちにその経緯を伝えたい。能中五年に進級して、応援活動の開幕が迫っていた。至急応援歌を作る事になり、久喜氏ら十期生有志が苦勞の未作詞した。当時は能中健児と言う呼び方ではなく、向陵や神陵に匹敵する呼び名がほしくて、樽子山なら樽陵かとも考えた。野球部OBが「松陵」を使っているのを知り、早速健児と結びつけて「松陵健児」と造語した。その後「松陵健児」が市民権を得て通用しているのは感無量である。さて、歌詞は出来たが次は曲である。曲は何処へ依頼すれば良いか五里霧中。早稲田、慶應、一高の「嗚呼玉杯」からの拝借も考えた。野球部員の一人(故人)が野球部の母校、四高の「南下軍の歌」だった。野球部の練習が終わると円陣になって合唱していたという。彼に有志で作詞した歌詞で歌ってもらったら豪勇にして悲壮で心魂ともに揺さぶられ、衆議一決した。ただこの際、平川監督に挨拶に行かなかったのは、今思えば若さ故の無思慮であった。その後、歌がうまい野球部員(戦死)が土手に立って一節ずつ歌って、土手下の全員が唱和して覚えた。能中卒業後、ラジオの寮歌特集で「南下軍」を聞いたなら元歌は多少違うなと感じた。「戦わん哉」の生みの親は紛れもなく平川氏である。この歌の作詞者を「第十期生有志」として戴きたい。

以上である。わが校の応援歌は四高の影響を強く受けている。四高は各種のスポーツで六高(岡山)、八高(名古屋)とよく試合をしている。わが校「北羽に吠ゆる」の元歌が六高なのは多分四高経由の六高でないかと小生は推測している。

なお小生、久喜氏を存せず、同級の北嶋和信先生に電話した所「彼は応援活動とその作詞に熱心だった」との事だった。傍線の如くはつきりわかかった事は、機会があれば歌集に載せたいかかなものであろうか。「戦わん哉」も、「第十期生有志」の作詞でよいと思う。わが校は、昭和十九年に校舎を全焼している。先輩諸兄には今後さらにご教示をお願いしたい。

事務局だより

平成10年度分 会務報告

(平成10年10月8日～平成11年9月21日)

- ◎10・10・17(土) 北海道支部総会 佐藤会計監事他2名
- ◎10・10・27(火) 佐々木満先生を囲む会(於平安閣)
- ◎10・11・21(土) 同窓会役員会 新年会の日程等
- ◎10・12・20(日) 「松陵 第10号」発行
- ◎11・1・30(土) 新年会 一・二名
講演会講師五十嵐靖氏30期(新12期)
演題「最近の社会情勢と大学環境」
- ◎11・2・6(土) 藤里支部総会 校長
- ◎11・2・8(土) 県庁能高会新年会 田中会長他2名
- ◎11・2・19(金) 能代高校四会役員会・
監査委員会 田中会長
- ◎11・3・1(月) 同窓会入会式
飯坂誠悦副会長他2名
(当番監事第23期)
- ◎11・3・2(火) 能代高校卒業式・祝賀会
田中会長他多数
- ◎11・3・26(金) 能代高校送別会 田中会長他2名
- ◎11・4・6(火) 能代高校入学式・
四会入会式 田中会長
- ◎11・4・19(月) 能代高校四会役員会・
監査委員会 田中会長
- ◎11・4・30(金) 能代高校四会総会 田中会長
- ◎11・8・7(土) 同窓会役員会・
監査委員会総会の日程等
- ◎11・9・4(土) 監査委員会(最終監査)
- ◎11・9・6(日) 十里強歩大会、
同窓生2名特別参加
- ◎11・9・10(金) 北海道支部総会 校長他1名
総会当番幹事(29期・39期)
の打合せ会7名
- ◎11・9・21(火) 能代高校同窓会総会(一・二名)



「挨拶する 田中会長」



「参加者全員で 万歳」

同窓会会計報告

I. 経常費

取入の部 平成10年度分(平成10年9月1日より平成11年8月31日まで)

項目	10年度予算額	10年度決算額	比較増減	適用
1 繰越金	604,855	604,855	0	昨年度報告
2 入会金	1,392,000	1,382,400	▲ 9,600	4,800円×288名
3 会費	1,500,000	2,066,640	566,640	
4 寄付金	1,000	0	▲ 1,000	
5 その他	1,000	266	▲ 734	預金利息
合計	3,498,855	4,054,161	555,306	

支出の部

項目	10年度予算額	10年度決算額	比較増減	適用
1 会議費	630,000	716,262	86,262	総会・新年会補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	100,000	13,038	▲ 86,962	電報
3 卒業関係費	120,000	116,550	▲ 3,450	人会記念品
4 通信印刷費	1,500,000	1,865,277	365,277	案内はがき、新聞広告
5 事務費	10,000	2,310	▲ 7,690	東京同窓会長お土産
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	138,855	0	▲ 138,855	
合計	3,498,855	3,713,437	214,582	

差引残高 収入4,054,161－支出3,713,437＝差引残高340,724

II. 基金

種類	平成10年度元金	平成11年度元金	適用
1 教団銀行積立	24,885,271	25,650,179	入会金691,200(2,400円×288名)
2 郵便局	6,688,494	6,708,420	
合計	31,573,765	32,358,599	

同窓会経常費予算

(1) 取入 平成11年度分(平成11年9月1日より平成12年8月31日まで)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	適用
1 繰越金	340,724	604,855	▲ 264,131	
2 入会金	1,300,800	1,392,000	▲ 91,200	4,800円×271名
3 会費	1,650,000	1,500,000	150,000	
4 寄付金	1,000	1,000	0	
5 その他	200	1,000	▲ 800	預金利息など
合計	3,292,724	3,498,855	▲ 206,131	

(2) 支出

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	適用
1 会議費	600,000	630,000	▲ 30,000	総会等補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	100,000	▲ 80,000	
3 卒業関係費	115,000	120,000	▲ 5,000	人会記念品
4 通信印刷費	1,500,000	1,500,000	0	案内はがき、新聞広告
5 事務費	5,000	10,000	▲ 5,000	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	52,724	138,855	▲ 86,131	
合計	3,292,724	3,498,855	▲ 206,131	